国際看護

THE INTERNATIONAL NURSING REPORT

（昭和47年6月9日　第3種郵便物認可）

第274号
平成6年5月10日（火曜日）
発行人
財団法人 国際看護交流協会
理事長 小倉一春
〒102 東京都千代田区九段北3丁目2－4 メヂカルフレンドビル内
電話（03）3264－6667

月1回（10日）発行　1部100円（送料とも）

3

外務省民間援助支援室の誕生によせて

なぜ、いまNGOなのですか？

五月女光弘

はじめに

つい最近ですが、九州のごく平均的な都市であるA市を訪問した時のことです。

市長さんにお目にかかり、国際交流の進め方について懇談した際に、市長さんがこんな話をされました。

「A市では近隣の大国であるC国のZ市との間で姉妹都市交流や研修生の受け入れなどを通じて、友好関係増進に努めています。われわれが親善目的や文化紹介のため相手の市を訪問する際は、当然のことながら経費はわれわれで持ちますが、Z市の方々がわれわれの市を訪問する場合も当方でその経費を負担することが多いのです。こういった財政面での一方通行による国際交流は、対等の立場にたって行う本来の交流のあり方からすれば問題があるのではないか、と疑問を呈する市民の声もかなりありました。」

そこで私が、「市長さんは市民に対してどのように説明されたのですか？」とお聞きしますと、こう答えておられました。

「日本はいま経済的にも文化的にもとても豊かな国になっています。でも昔からそうであったわけではありません。日本も千年以上もの昔からごく最近まで、いろいろな国々の助けや影響を受けて現在の豊かな国になってきたのです。特にお隣のC国からは千年の長きに亘り、言葉に言い尽くせないほどの影響と恩恵をうけてきました。われわれの使っている「文字」や「食べ物」、そして「遊び、おもちゃ」といったものから「哲学、文学」に至るまでいろいろ学ばせてもらってきたわけです。

そのような歴史を忘れてはいけないと思います。われわれはいまC国の人々より経済的に恵まれています。われわれが長年受けてきた恩恵に対する恩返しの気持ちで、いま日本側ができることをしてあげるべきではないでしょうか。」・・・とても心に残るお話でした。

〈わが身を振り返れば〉

ところで話は変わりますが、一九六〇年、当時の日本は〝開発途上国〟として世界銀行の融資対象国リストに名を連ねていました。つまりお金を貸す側ではなく、借りる側の一員だったのです。そして、日本は借りたお金で新幹線を作り、高速道路を作り、経済発展のスタートを切りました。

一九九〇年、日本は三十年ローンの借金を返し終わりました。日本が一人前の先進国に復帰できたのはそんな昔のことではないのです。

第二次大戦後、日本は国際機関はもとより世界の国々や人々からの助けがなければ、戦争の荒廃からこんなに早く立ち直ることはできなかったと思います。

日本に援助の手を差しのべてくれた外国の機関の中には、多くのNGO団体がありました。四十年前、私たちが小さい頃、口にした食べ物や薬品などのかなりのものは、そのようなNGOの人々の善意によって届けられたものだったと信じています。

今度は私たちが行動する番です。

世界のあちこちで〝四十年前の私たち〟が、〝現在の私たち〟からの助けを待っているのです。

……

私、このたび外務省でNGOを担当することになりました五月女（さおとめ）でございます。今年度政府予算成立により、経済協力局に「民間援助支援室」（通称NGO支援室）が正式の「室」として誕生いたします。NGO支援を専属に担当する「室」の設置は政府内で初めてのことです。

私はこれまで国際化・国際交流推進担当企画官として、自治体の方々や民間団体の方々とご一緒に仕事をしてまいりましたが、その方々に加えて、これからは開発援助に取り組んでおられるNGOの皆様ともお仕事をご一緒できることを幸せに思っております。どうかお気軽に私どもの部屋にお越しいただき、どのようなことでもお話になって下さい。

微力ではありますが、全力を尽くして頑張りたいと存じますので、どうかよろしくご助言とご協力をお願いいたします。この紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。

（外務省経済協力局民間援助支援室長）